

20201020 野性ランの危機・・・ハエの食害

2018年11月8日付の朝日新聞に掲載された記事を、以前一緒に三谷で活動していた藤江氏から知らされた。「野生ラン 脅かすハエ食害」という記事である。

これによると、国内の野生のラン科植物は約300種あり、そのうち 70%が環境省の絶滅危惧種に指定されているらしい。三谷では希少種(奈良県レッドデータブック)というランクで観察対象アイテムに入れている。

ランミモグリバエという虫が、果実に産卵し、幼虫が種子を食べ、さなぎを経て成虫になって羽化するが、里山を中心として、幅広い種類のランが被害を受けているという。

記事の中に見慣れたオオバトンボソウが写真入りで掲載されていた。花茎が枯れた姿の写真である。キンラン、クマガイソウ、オオバトンボソウなどが被害者である。

私たち火曜班のフィールドの一つであるキトラの小山で、2010年春にはニョキニョキ顔をだしてくれたが、それ以外の年は数少ないオオバトンボソウを探さなければわからないくらいに減ってしまっている。しかも花の開花にまで至る個体は最近では見たことがない。まして果実となると一度もお目にかかったことさえない。

このような状況ゆえに、最近では花の写真としてのモデルにもなりえず、撮影から除外してしまうくらいで、過去の写真フォルダーにもほとんど残っていない。

6-7月が開花期のオオバトンボソウでは、つぼみなどが食べられ、開花前に花茎が枯れる被害が多いようだ。おそらく私たちが最近開花にお目にかかれず、少ない個体の中でも黒ずんだ花茎になったものしか見れないのも、同じハエの被害に違いない。

かつてラン科のエビネなどの栽培ブームが起こったが、乱獲された株が人の手で各地に運ばれ、このハエを広めたとの疑いがあるらしい。

以上